

初任段階教員の資質能力の向上に向けた 効果的な研修プログラムの開発に関する研究

北海道立教育研究所

人材育成部研究主幹 山寺 潤

I 研究の動機（現状と課題）

初任段階教員研修の概要

目 的：採用 1 年次から 5 年次に至る初任段階教員として必要な資質能力の育成・向上を目指し、学習指導、生徒指導等に関する基本的な事項について研修をする。

内 容：北海道教育委員会が実施する「道教委計画研修」
各学校で実施する「学校計画研修」

※内容例：初任段階教員 1 年次研修

年次	道教委計画研修			学校計画研修
形態	オンデマンド研修	遠隔研修	集合研修	各学校で実施
1 年次	1 日（0.5 日 × 2）	1 日（0.5 日 × 2）	1.5 日（1 日 + 0.5 日）	150 時間以上

I 研究の動機（現状と課題）

初任段階教員研修における役割

教職員育成課

- ・ 北海道における教員育成指標の策定
- ・ 北海道教職員研修計画の策定

基本研修の準則の策定

- ・ 初任段階教員研修
- ・ 中堅教諭等資質向上研修
- ・ 学校運営研修会 . . .

道立教育研究所

大半の**基本研修コンテンツ**を作成

説明用スライド

説明原稿

研修用ワークシート等

研修の流れ（コマ案）



I 研究の動機（現状と課題）

「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて

主体的な姿勢

変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ自律的に学ぶことができる姿勢

継続的な学び

求められる知識技能が変わっていくことを意識することができる学び

個別最適な学び

新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した学び

協働的な学び

他者との対話や振り返りの機会を確保した学び



I 研究の動機（現状と課題）

- 学校では、職員の年齢構成の変化などにより、経験豊かな教員からの知見の伝達が困難になっている。
- 初任段階教員が研修内容を自身の実践との関わりで捉えたり、よりよい教育実践に向けて今後の取組の見通しを明らかにしたりできるよう、初任段階教員研修の改善・充実が期待される。
- 教職に魅力を感じ、教壇に立つ初任段階教員を支える研修の実現を目指す。

Ⅱ 研究のねらい（目的）

○ 北海道教職員研修計画を踏まえ、教職生活を通じた「新たな学びの姿」の実現に向けて、初任段階教員の資質能力の向上に向けた効果的な研修プログラムを開発する。

研修プログラム

研修プログラム詳細表

【第一編】令和6年度（2024年度）初任段階教員研修（1年次（新任者）研修・第1期）【コマ編】	
期名	第1期（1次研修）【共通】【集合研修】
日時	〇月〇日（ ） 9:10-10:10（90分）
会場	〇〇〇〇
定員	小100名、中100名、高100名、特100名、計400名
研修者	各教育委員会
研修内容	初任段階教員としての資質能力の向上を図るための研修
研修資料	・研修資料集 ・研修資料集の解説

組織的対応が求められる背景

図表：組織的対応が求められる背景

1.5人、5.5人、1.2人、13.5人

研修運営者資料

研修運営者資料のスクリーンショット。研修の進行状況、参加者の数、研修の成果などを確認するための資料。

学校計画研修モデル

学校計画研修モデルのスクリーンショット。研修の計画、実施、評価、改善のサイクルを示すモデル。

道教委計画研修コンテンツ

研修運営者資料

学校計画研修モデル

Ⅲ 研究の方法

- 初任段階教員研修の成果と課題の把握
- 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた、初任段階教員研修の在り方の検討
- 道教委計画研修コンテンツの改善
- 「研修運営者資料」の開発
- 「学校計画研修モデル」の開発

IV 主な取組

- 4月 研究内容及び研究体制の構築
- 6月 初任段階教員研修の視察とヒアリング
- 7月 初任段階教員を対象としたアンケートの分析
- 8月 岩手県立教育研修センターの視察・聞き取り
- 9月 「研修運営者資料」「学校計画研修モデル」の試作
- 10月 中間発表会における発表と助言
- 11月 初任段階教員研修の視察とヒアリング
- 12月 初任段階教員の育成に係る学校視察
- 2月 教員養成大学への訪問とヒアリング

IV 内容

○ 初任段階教員研修の成果と課題の把握

初任段階教員研修の視察・運営

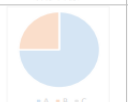
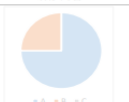
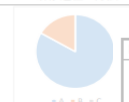


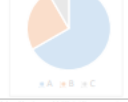
研修を視察する観点

- ▶ 「研修目標」は達成されていたか
「研修内容」や「研修過程・方法」は適切か
- ▶ 「説明」や「演習」の内容や分量、「協議」のテーマは適切であったか
- ▶ オンデマンド研修を踏まえた研修となっているか
- ▶ 参加者が日常の実践と結び付けたり、振り返ったりする場面が位置付けられているか
- ▶ 準備物の指示や運営者への配慮は適切であったか

IV 内容

○ 初任段階教員研修の成果と課題の把握

初任段階教員研修 1 年次 1 期 視察のまとめ			
講座名	【調査・演習】「単元時間の指導計画の作成」		
	研修目標	研修内容	研修過程・方法
基礎的な視点			
具体的な視点	①「説明」の内容・分量 ②「演習」の内容・分量 ③「協議」のテーマ ④「まとめ」の内容・分量 ⑤オンデマンド研修を踏まえた内容	①「説明」の内容・分量 ②「演習」の内容・分量 ③「協議」のテーマ ④「まとめ」の内容・分量 ⑤オンデマンド研修を踏まえた内容	①「説明」の内容・分量 ②「演習」の内容・分量 ③「協議」のテーマ ④「まとめ」の内容・分量 ⑤オンデマンド研修を踏まえた内容
組み立て	①「説明」「演習」「協議」の順序や組み合わせ ②「説明」「演習」「協議」の時間配分 ③日常生活と結び付けたり振り返ったりする場面	①「説明」「演習」「協議」の順序や組み合わせ ②「説明」「演習」「協議」の時間配分 ③日常生活と結び付けたり振り返ったりする場面	①「説明」「演習」「協議」の順序や組み合わせ ②「説明」「演習」「協議」の時間配分 ③日常生活と結び付けたり振り返ったりする場面
運営	①協議のグループ人数 ②配付資料や投影資料の見やすさ ③準備物の指示や運営者への配慮	①協議のグループ人数 ②配付資料や投影資料の見やすさ ③準備物の指示や運営者への配慮	①協議のグループ人数 ②配付資料や投影資料の見やすさ ③準備物の指示や運営者への配慮
その他	①個人演習の見直しが行われていたため、それを確認しながら演習を行うことができた。 ②前のコマ「単元の指導計画」で流れを確認していたので、どの場面を振り返ることが考えやすかった。 ③個人で取り組む演習であるにもかかわらず、「適宜、相談して進めてください」と、受講者同士で相談し合いながら進めることができた。 ④演習の時間が足りなかったため、短時間で取り組める工夫が必要だと感じた。 ⑤出来上がった指導案を添削して、受講者同士で交流することも考えられる。 ⑥配付資料が多く、受講者には情報過多であった可能性がある。 ⑦特別支援学校や複式学級担任などの受講者の「演習」について、配慮の余地がある。		

初任段階教員研修 1 年次 1 期 視察のまとめ			
講座名	【協議】「学年・学期・ホームルーム経営等」		
	研修目標	研修内容	研修過程・方法
基礎的な視点			
具体的な視点	①「説明」の内容・分量 ②「演習」の内容・分量 ③「協議」のテーマ ④「まとめ」の内容・分量 ⑤オンデマンド研修を踏まえた内容	①「説明」の内容・分量 ②「演習」の内容・分量 ③「協議」のテーマ ④「まとめ」の内容・分量 ⑤オンデマンド研修を踏まえた内容	①「説明」の内容・分量 ②「演習」の内容・分量 ③「協議」のテーマ ④「まとめ」の内容・分量 ⑤オンデマンド研修を踏まえた内容
組み立て	①「説明」「演習」「協議」の順序や組み合わせ ②「説明」「演習」「協議」の時間配分 ③日常生活と結び付けたり振り返ったりする場面	①「説明」「演習」「協議」の順序や組み合わせ ②「説明」「演習」「協議」の時間配分 ③日常生活と結び付けたり振り返ったりする場面	①「説明」「演習」「協議」の順序や組み合わせ ②「説明」「演習」「協議」の時間配分 ③日常生活と結び付けたり振り返ったりする場面
運営	①協議のグループ人数 ②配付資料や投影資料の見やすさ ③準備物の指示や運営者への配慮	①協議のグループ人数 ②配付資料や投影資料の見やすさ ③準備物の指示や運営者への配慮	①協議のグループ人数 ②配付資料や投影資料の見やすさ ③準備物の指示や運営者への配慮
その他	①協議の場には十分な時間を確保できていた。 ②協議・演習では受講者の協議の様子を見ながらタイムマネジメントされていた。 ③交流や協議をする際の視点が決まっていたため、協議の全体交流においても深まりが見られた。 ④具体的な日常生活と結び付けられることが難しい場面があった。 ⑤研修時間の振り返りをグループ交流する機会としない場面があり、疑問に感じた。 ⑥「本校研修発表」等、考え方の違いになる資料を提示する点もよい。 ⑦本校研修発表と学校経営に係る説明がもっともよい。		

視察から明らかとなった事項

- ▶ 説明の分量が多い講座があり、受講者の集中力が途切れる場面も見られた。また、協議に十分な時間を充てられていない
- ▶ 研修の目的を達成できるよう、演習の内容や進め方を吟味する必要がある
- ▶ 演習や協議を行う際は、自校や自身の取組と結び付けて考えられるよう工夫が必要
- ▶ 協議で得られた気づきや学びをまとめに反映できていない場合がある
- ▶ 円滑な研修運営に向けて、演習に必要な準備物を明確に示す必要がある など

初任段階教員研修の成果と課題の理解 改善の方向性を共有

Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修の成果と課題の把握

初任段階教員を対象としたアンケートの実施

これまでの初任段階教員研修の成果を自校でどのように生かしたいですか

- ・ 研修で学んだ授業づくりや学習評価、特別支援教育の考え方を自校の実践で生かしたい。
- ・ 授業の工夫やICT活用などについて、自校の先輩教員から学んでいきたい。
- ・ 課題が生じて一人では抱え込まず、他の教師に相談したり、協力をお願いしたりするなど、連携や協働を大切にしていきたい。

【課題やニーズ】

- * 学習意欲を高める指導の工夫に課題を感じている
- * 特別な支援を必要とする児童生徒との関わり方に課題を感じている
- * 児童生徒の小さな変化に気付けるよう、コミュニケーションを豊かにしていきたい



Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修の在り方の検討

岩手県総合教育センターの視察



- ・ 広域分散の地域特性に応じた初任段階教員研修の実施体制
- ・ 「学び方を学ぶ」アクション・リサーチの取組

IV 内容

○ 初任段階教員研修の在り方の検討

「**学び続ける教師**」になるために

アクション・リサーチの手法を用いて

- ・ 教師自らの主体的な学びのマネジメント
- ・ 個別最適・協働的な教師の学び
- ・ 適切な目標設定と現状把握
- ・ 自らの経験や他者から学ぶといった「現場の経験」も含む学び

道教委計画研修を自校の学びに生かす

- ・ 省察の場面をどのように位置付けるか
- ・ 研修内容を自身の実践とどのように結び付けるか
- ・ 自校における学びをどのようにデザインするか
- ・ 自校における協働的な学びをどのように促すか

Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修の在り方の検討

教員養成大学へのヒアリング

- ▶ 本研究の概要
- ▶ 初任段階教員研修の概要
- ▶ 教員養成大学におけるカリキュラムや講義内容
- ▶ 初任段階教員研修の在り方 など

Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修の在り方の検討

研修観の転換に向けた所員研修



独立行政法人教職員支援機構（NITS）と連携した継続的な研修

Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修のコンテンツの改善

Ⅰ 遠隔研修の振り返り

【交流】

これまでの生徒指導を振り返り

困っていることや知りたいことなど

【交流の視点】

児童生徒

2 学級（ホームルーム）経営の実際

<協議①>

あなたが、学級（ホームルーム）担任として、「支え合い高め合う児童（生徒）」を目指す児童（生徒）像に掲げ、その実現に向けて、児童生徒のよさを認め、励まし、みんなに広めることにしたとします。

あなたは、具体的にどのような取組を進めますか。

ワークシートに記入の上、グループで協議

「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて

「主体的な姿勢」につながる改善の視点

- ▶ 自校における実践を振り返ったり、実践上の課題を見つめたりする場面の充実

「継続的な学び」につながる改善の視点

- ▶ 5年間に渡る研修全体のつながりやオンデマ・遠隔・集合研修それぞれの特長を生かした改善

「協働的な学び」につながる改善の視点

- ▶ 自校におけるこれまでの実践や研修を受講した気付きなどに関する対話の充実

Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修のコンテンツの改善



生徒指導の研修では

- ・ 協働的な学びにつながる研修の工夫
- ・ 主体的な姿勢につながる研修の改善

「対話を通して、他の教員との連携やコミュニケーションの大切さ学んだ。日常の教育活動でも積極的に他者と関わり、支え合いながら教職を続けていきたい。」

「生徒指導の考え方を生かして、学級経営を改善することが求められており、日常の実践に取り入れたい。」

省察や協議の充実による研修成果の実感

Ⅳ 内容

○ 初任段階教員研修のコンテンツの改善

学習指導の研修では

- ・ 個別最適な学びを実現する研修の工夫
- ・ 継続的な学びにつながる研修の改善

「本研修での学びを同僚と共有し、授業改善に役立てたい。経験豊富な先生方との情報交換を積極的に行い、教育活動に反映させていきたい。」

「授業の計画や振り返りを継続的に行い、学習指導要領に基づいた質の高い授業づくりを続けたい。他の教員の実践を参考にしたり、自分の授業を振り返ることを習慣化し、ブラッシュアップを図っていきたい。」

学び続ける意欲を引き出す

IV 内容

○ 初任段階教員研修のコンテンツの改善

次年度研修コンテンツの作成

受講者アンケートの分析

研修運営者の意見の整理

研修を改善する方向性を明確化

研修内容や配列の検討

説明内容の吟味

演習や協議内容の工夫

	形態	タイトル	内容	準則	趣旨
I期	オンデマ	学習指導の基本 (5分+NITS動画) 今日的に求められる 授業改善(15分)	NITS動画の活用 主体的・対話的で深い学び 令和の日本型学校教育 授業づくりの基本「5つの視点」 GIGAスクール構想の実現 など	・学習指導の基本 ・学習評価の方法 ・主体的・対話的で深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び ・授業づくりの基本「5つの視点」 ・ICTの効果的な活用	オンデマンドで必要な知識を伝達 (いつでも振り返りが可能)
	遠隔	授業改善の進め方 (50分)	日常実践の課題の交流 先輩教員の経験談 授業改善の進め方 今後の授業改善に向けて(学習指導の研修の進め方)	・主体的・対話的で深い学びの実現 に向けた授業改善	日常の実践を見つめる 先輩教員の経験に学ぶ
	集合	単元及び一単位時間 指導計画の作成 時間 (120分)	単元(題材)や一単位時間の指導計画作成の考え方 (持参資料を参考に) 指導計画作成の実践(SSや先輩教員からのアドバイス)	・単元の指導計画の作成 ・一単位時間の指導計画の作成 ・個に応じた指導、習熟の程度に応じた指導 ・ 授業評価の活用 ・II期研修に向けた課題設定	全ての初任者が指導計画を作成できる 対話を生かして指導計画を作成
		(自校での課題)	指導計画の作成と実践		I期研修を踏まえて指導計画を作成 (夏季休業後に実践)
II期	オンデマ	特活、道徳、外国語、総合 の指導(各20分)	各教科等における改善のポイント	従前のまま	
	遠隔	特活、道徳、外国語、 総合の振り返り (30分・選択)	授業実践の振り返り、授業づくりのポイント 授業改善の視点	・単元(題材)の指導計画及び一単位 時間の指導計画の改善 ・個別最適な学びと協働的な学び ・ 授業研究の方法	実践を振り返り、成果と課題を明確化
	集合	授業実践の振り返り (100分) 授業改善の着実な実施(50分) 学習指導における課題 と取組の明確化(65分)	授業実践の振り返り 授業づくりの基本「5つの視点」 ICTを活用した授業改善の実践 授業改善に向けた検証改善サイクル	・授業づくりの基本「5つの視点」 ・ICTの効果的な活用	1年次の研修の総括的なまとめ 4年次までの授業改善の方略

(例) 研修内容や配列の検討

Ⅳ 内容

○ 研修運営者資料の作成

講座名	協議「授業実践の振り返り①」 【小学校・中学校・特別支援小学部会・中学部会共通】【集合形式による研修】	
日時	令和6年11月26日（火） 14:10～15:10（60分）	
会場	各教育局等	
受講者	小：〇〇名 特小：〇〇名 中：〇〇名 特中：〇〇名 計：〇〇名	
説明・運営者	説明：各教育局職員	
実施準則に示されている内容	・学習指導の基本 ・学習評価の方法 ・授業づくりの基本「5つの視点」 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・個別最適な学びと協働的な学び	
ねらい	自身の実践を振り返り、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた今後の授業改善について見通しをもつ。	
研修の流れとつながり	【第Ⅰ期研修】 オンデマンド研修では、教育の動向や北海道教育の現状、学習指導要領の趣旨等について理解を深めました。また、遠隔研修や集合研修では、自身の実践上の課題を見つめた上で、単元や一単位時間の指導計画の作成に取り組みました。 【Ⅰ期研修とⅡ期研修の間】 作成した指導計画に基づいて授業実践に取り組みました。 【第Ⅱ期研修】 オンデマンド研修では、授業評価や「総合的な学習の時間」等の基本的な考え方について理解を深めました。また、遠隔研修では、自校における実践を「主体的・対話的で深い学びの視点」や「授業改善の5つの視点」から振り返り、今後の授業改善のイメージを明らかにしました。	
配付資料	・PPTスライド資料	
準備資料	・遠隔研修Ⅱで使用した協議シート ・遠隔研修後に実践した指導計画やワークシート（任意）	
時間	内 容	運営のポイント （・ポイント ★新たな教師の学びの姿）
14:10	説明 - はじめに（スライド1～4） ○ これまでの研修とのつながり ○ 講座のねらいと内容の確認	★「継続的な学び」につながるよう、これまでの研修を振り返り、本講座のねらいを伝えて下さい。 ・1年次における学習指導のまとめの講座であることを意識付けてください。

円滑な研修運営と
研修の質的向上に向けて

これまでの研修とのつながり

「新たな教師の学びの姿」を
実現する視点

協議運営のポイント

IV 内容

○ 学校計画研修モデルの作成

北海道立教育研究所

新たな教師の学びの実現に向けて ～初任段階教員研修「学校計画研修モデル」の御紹介～

「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の学びが求められる中、初任段階教員においても、経験豊かな同僚や質の高い学習コンテンツなどから学ぶことにより、資質能力を着実に身に付けていくことが求められています。道立教育研究所では、「新たな教師の学びの実現」に向け、初任段階教員研修の「学校計画研修モデル」を作成しましたので、ぜひ御活用ください。

本モデルの概要

本モデルでは、「現状把握」「計画」「省察」「実践」という流れの中で、他者との対話や質の高い学習コンテンツの活用、オンラインによる学びなどを生かし、教職生涯を通じて学び続ける「学び方」が身に付けることができます。

現状把握

管理職及び指導教員との対話や自己診断シートの結果などから自身の現状や課題を把握します。

計画

教師の個別最適で協働的な教師の学びに当たっては、多様な研修スタイルを効果的に組み合わせることが有効です。

省察

自らの学びを振り返り、研修で得た気づきや学びを職場実践につなげます。

実践

コンテンツ活用

研修動画やCBT、書籍などを活用し、理論と実践について理解を深めます。

Plant活用

Plantを活用し、オンラインの研修機会を設けることにより、初任者同士の学び合いを促進します。

メンター研修

現場の経験や実践指導を通して、教員として必要な資質能力を高めることができます。

授業研究

授業参観や授業実践を通して、授業づくりの視点が明確になり、授業改善につながります。

道教員計画研修と学校計画研修のつながり

初任段階教員研修全体の中で、「道教員計画研修」と「学校計画研修」がつながりをもって位置付くことにより、一層の研修効果が期待されます。

採用	4月	5月～8月【第Ⅰ期】	9月～12月【第Ⅱ期】	1月～3月
道教員計画研修	オンライン 0.5日	夏季休業終了までの0.5日	遠隔研修までの0.5日	
学校計画研修		1日	0.5日	

コンテンツ研修（道教員計画研修の前後に研修内容と関連した項目について学ぶことにより、研修効果を一層高めることができます）

Plant研修（道教員計画研修後もオンラインを活用することにより、継続的に学ぶことができます）

メンター研修（道教員計画研修で得た知見と現場の経験を組み合わせることにより、深い学びにつなげることができます）

授業実践（道教員計画研修で得た知見を基に授業実践を行うことにより、授業の質を高めることができます）

教師の学びを支える多様なスタイル

新たな教師の学びの実現に当たっては、多様なスタイルを組み合わせて自ら主体的に学びをマネジメントしていくことが期待されます。

コンテンツ活用

個性に即した個別最適な学びができます。

道教員計画研修の準則や講座内容を基にしたワークシートの取組により、課題が明確になります。

動画リンクシートを用いることにより、学びを深めたい事項に合わせた動画を選択し、最新の知識技能を学びます。
※NITS動画・北海道教育大学作成動画等を中心としています。

動画視聴で得た新たな気づきに基づき、対話や協議を行うことにより、豊かな気づきを醸成することができます。

動画リンクシートの活用方法

- ①動画を選択し、アクセスします。
- ②動画視聴環境が整います。
- ③動画視聴を開始します。
- ④動画視聴が完了します。

道教員計画研修準則

道教員計画研修の準則は、道立教育研究所のウェブサイトからダウンロードできます。

Plant活用

どこでも協働的に学ぶことができます。

日常の実践を振り返り、学びを深めたい事項について「初任段階教員研修（学校計画研修）」の主な内容を参考に研修計画を立てます。

Plantを活用することにより、研修場所を問わず他校の初任段階教員と共に学ぶことができ、互いの資質能力を高め合う関係性の構築にもつながります。

Plantで得た新たな気づきに基づき、更に学びを深めたい事項が明確になり、学びを深めることができます。

Plantの活用方法

- ①学びを深めたい事項に基づき、研修計画を立てます。
- ②研修の受講。記録は「全国教員研修プラットフォーム（通称：Plant）」を活用しておりますので、必要事項を記録の上、受講者を募集します。

道教員計画研修準則

道教員計画研修の準則は、道立教育研究所のウェブサイトからダウンロードできます。

メンター研修

「現場の経験」を重視したスタイルです。

教員育成指導やCBTの結果から自身の現状をメタ認知することにより、課題が明確になります。

学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、新たな領域の専門性を身に付けたり、課題を克服したりするなど自らの強みや特色を生かすことが重要です。

教師の学びの姿は、子どもたちの学びの相対形であり、メンター研修を授業改善につなげることができそうです。

教員育成指導やCBTの結果から自身の現状をメタ認知することにより、課題が明確になります。

メンター研修の活用方法

- ①アセスメントを完了します。
- ②トレーニングモデルを選択します。
- ③実践を行います。

道教員計画研修準則

道教員計画研修の準則は、道立教育研究所のウェブサイトからダウンロードできます。

授業研究

日常の授業改善を目指します。

自己診断シートの結果や管理職及び指導教員との対話から、自身の強みを知り、研修の見直しをもちます。

第Ⅰ期は授業参観に重きを置くことで授業づくりの視点を明確化し、第Ⅱ期以降は授業実践を重ねることで授業の質を高めていきます。

日常の授業場面を初任段階教員研修の場面として捉えることにより、教師としての資質能力を継続的に高めることができます。

授業研究の活用方法

- ①自己診断シートを入力し、診断結果を確認します。
- ②管理職や指導教員からの助言などを通じて、自身の現状や課題を把握します。

道教員計画研修準則

道教員計画研修の準則は、道立教育研究所のウェブサイトからダウンロードできます。

道研では本道の教育課題の解決に向け、いくつかのプロジェクト研究に取り組んでおります。本資料は、「初任段階教員の資質能力の向上に向けた効果的な研修プログラムの開発に関する研究」の成果のひとつとして作成しました。下記のアドレスからプロジェクト研究の全体像にアクセスできますので、御活用ください。また、お預りのことがあれば道研にお問い合わせください。

URL: <http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/> ※ doken-kansyu@hokkaido-c.ed.jp ☎ 011-386-4513

学校における初任段階教員の学びをサポート

IV 内容

○ 学校計画研修モデルのポイント

- ▶ 他者との対話や質の高い学習コンテンツを活用しながら「**学び方を学ぶ**」
- ▶ 「道教委計画研修」と「学校計画研修」を**関連付ける**ことで、研修効果を高める
- ▶ 初任段階教員の学びを支援することによる、学校の**組織的な学び**を提案
- ▶ **効果的・効率的な研修**の実現による、学校における働き方改革の促進
- ▶ 「北海道における教員育成指標」や「自己診断シート」、「全国教員研修プラットフォーム」(Plant)などの統合的な活用を提案

V 今後に向けて

- 次年度の初任段階教員研修の状況を把握し、本研究の成果と課題を明らかにした上で、研修コンテンツや「研修運営者資料」の改善を進める。
- 作成した「学校計画研修モデル」については、希望する学校と試行実施し、改善を図った上で、普及を図る。

令和7年3月14日（金）

初任段階教員の資質能力の向上に向けた 効果的な研修プログラムの開発に関する研究

御清聴ありがとうございました。

北海道立教育研究所

人材育成部研究主幹 山寺 潤